



2010年7月7日発行 (季刊)

特定非営利活動法人 市民シンクタンクひと・まち社
〒160-0021 新宿区歌舞伎町 2-19-13 A S K ビル 601
TEL 03-3204-4342 FAX 03-6457-6202
E-mail npo@hitomachi.org URL : <http://www.hitomachi.org>
郵便振替口座 00170-6-410791 市民シンクタンクひと・まち社

若い世代へ期待 ～日大講座でもう一つの働き方の実践を伝える～

西脇 世津子 (第三者評価者・ぱあとなあ東京 成年後見人)

日本大学文理学部キャリアデザイン基礎講座の1コマに講師依頼を受け、ひと・まち社の理事を引き受けたばかりの初仕事として、働き方をテーマに、企業とは違ったワーカーズコレクティブの働き方などについて話をすることがありました。

私が市民活動に関わるきっかけとなったのは、入退院を繰り返した重度のアトピーの娘のため、近所の方々やヘルパーさんの手助けを受けた経験が大きかったように思います。この経験を生かして、今度は助ける側に…という思いから、杉並のたすけあいワーカーズ設立時にメンバーとなり、2000年の介護保険参入時には管理者・サービス提供責任者となりました。さらに、地域の相談業務に関わるなか社会福祉士の資格を取得しました。

ひと・まち社の最初の第三者評価者の1人として、東京都福祉サービス第三者評価試行時より活動し、現在は東京社会福祉士会権利擁護センター「ぱあとなあ東京」の成年後見人、杉並区移動サービス情報センター相談員、杉並区介護保険認定審査会委員として活動しています。

講師をお引き受けしたものの、専門分野も様々な20歳前後の学生に、どのように話をすれば現在の活動を身近に感じてもらえるのかと、不安を感じながらの講義でした。介護保険制度がスタートして10年、たすけあいワーカーズで行ってきたホームヘルプの話については、比較的知られているのか、関心を持って聞いてくれました。介護サービスも契約ということになり、成年後見の役割も大きくなってきていますが、後見の必要な高齢者をイメージしてもらうには、「はじめてのおつかいを」思い出してもらいました。買いたいものを買うことができるのか、お金を払っておつりをきちんと受け

取ることができるのか、不安でいっぱいな気持ちで出かけた時から、今はお小遣いやアルバイト料を自由に使ったり、貯金したりできるようになりました。卒業して社会人になると、住宅の賃貸契約も、ローンを組むことも一人ですようになります。しかし、年を重ねていくうちに、買い物に行っても必要のないものをいくつもいくつも買って来るようになったり、また、お金の計算ができなくなって、いつも紙幣を出しておつりをもらい、家には小銭がたくさん貯まるなど、まるで「はじめてのおつかい」に戻ってしまうような人もいます。さらに足腰が弱ると、必要なものも買いに出かけなくなっていくような状態になることもあります…。このようになってきた時には、買い物だけでなく役所からのお知らせや年金の手続きなどへの対応も滞り、周りに支援してくれる人が必要になってきます。支援してくれる家族などがない場合に必要となる、後見人の仕事を説明しました。

十分伝える事が出来たかどうか分かりませんが、私語も、居眠りもなく、ときにうなずいて聞いてくれ、授業が終わった後にも数人が順番に話をしに来てくれました。コミュニケーションの工夫をすることで、世代の隔たった若い人にも経験してきた事を伝えることの大切さを感じ、これからも少しでも若い人に活動を伝え、広げていきたいと思いました。

最後に、この講座の準備に資料提供を下された東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合と、NPO法人アビリティクラブたすけあい(ACT)の皆様、この場を借りて改めて感謝申し上げます。

